

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	当院における転倒事例と使用薬剤の実態調査
研究責任者	薬剤部 永松 美穂
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>入院中において、環境の変化や病状の悪化などの要因で睡眠障害が発現することが多いと言われています。また高齢の患者さんを中心として睡眠薬が高頻度で処方され、服用されています。更に高齢者では代謝機能の低下に伴う持ち越し効果が一因となって、転倒のリスクが増加します。これらはインシデント報告の上位を常に占めており、重要な問題となっています。</p> <p>当院のインシデント報告のうち、転倒した患者さんを対象として、どのような薬剤で転倒したかを調査し、転倒事例と使用薬剤との関連性を評価します。更に医療スタッフから患者さんへの的確な情報提供をする事を目的としています。</p>
研究方法	<p>【対象】2017年6月から12月までの当院における転倒インシデント報告された患者さんを対象とします。転倒の事象レベル、年齢、性別、診療科を医療安全管理システムSafeMasterより抽出し、電子カルテ上の経過表において転倒直前までに投与されていた薬剤を調査し、関連性を検討します。匿名化を行ったうえでデータベース化して解析を行います。</p> <p>【倫理的配慮】 個人情報保護には十分な配慮を行った上で解析を行います。上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方は当センター薬剤部までご連絡下さい。 患者さんに不利益を被らないこととしております。</p>
問い合わせ先	